令和４年度豊かなむらづくり全国表彰事業（近畿ブロック）

農林水産大臣賞

早崎町自治会（滋賀県長浜市）

（魚道の設置（魚のゆりかご水田））

（ビオトープに飛来するコハクチョウ）

（小学生のビオトープ観察会）

【概　要】

（１）むらづくりの動機・背景

琵琶湖に接した当町は、昭和 30 年代の食糧増産政策により早崎内湖が干拓地化され、集落の水田面積は拡大したが、干拓地特有の粘質土壌による稲の倒伏、トラクタ・田植機等の沈み込み、さらに干拓地の排水ポンプ経費等高額な維持管理費用から集落農業の存続に危機感をいだいていた。加えて、高齢化の進展による後継者問題を抱える中にあって、早崎町住民全員で構成する多面的機能支払制度の活動組織「早崎・農地水環境守ろう会」や、町内有志で構成し、早崎内湖の環境保全活動を担うＮＰＯ「早崎ビオトープネットワーキング」の設立により、集落の活性化につながる取り組みが始まった。

（２）むらづくりの内容

干拓地という生産面で不利な本地区は、農林水産省補助事業の活用による農業施設整備や多面的機能支払制度の取組により集落ぐるみで農村環境を守っている。

「早崎・農地水環境守ろう会」は国の補助事業が始まった平成 19 年当初から多面的機能支払制度に取り組み、現在の対象面積は 64.7ha で県内平均 38.3ha の約 2 倍と県下屈指の面積を誇っている。

特に同会では、農業者のみならず、自治会、老人クラブ（長寿会）、子ども会等、非農家も含む地域住民が一丸となって、農地の保全、農漁業の振興、地産地消の推進、都市住民との交流などを実践している。その中でも「魚のゆりかご水田」は、琵琶湖に近い水田排水路に手作りの魚道を設置し、フナやナマズ等の湖魚を水田内に遡上産卵させ稚魚を琵琶湖に戻す仕組みで、ここで収穫した「魚のゆりかご水田米」は、東京や大阪等に直売している。

また、水田ニゴロブナ繁殖事業（水田に稚魚を放流育成し琵琶湖に戻す事業）に取り組むなど住民が一体となって農地での水産資源の保全にも取り組んでいる。

さらに「早崎ビオトープネットワーキング」ではビオトープゾーンでの自然観察会を主催するなど自然との共生に一役を担っており、早崎町住民の自然環境に対する意識は高い。

また、地域コミュニティ活動や高齢化・少子化対策としての相互援助活動に取り組む「早崎福祉ＪＨの会」を立ち上げ地域に寄り添った福祉活動を展開するなど、子どもから高齢者まで集落ぐるみで風通しの良いむらづくりに励んでいる。

このように集落だけの取組にとどまらない一連の活動は、都市住民、消費者、次代を担う世代など幅広い層との関係人口の増加に寄与するとともに、高齢化が進展し農業人口が減少していく農村において持続可能で発展的な環境活動を核としたむらづくりを実践している。